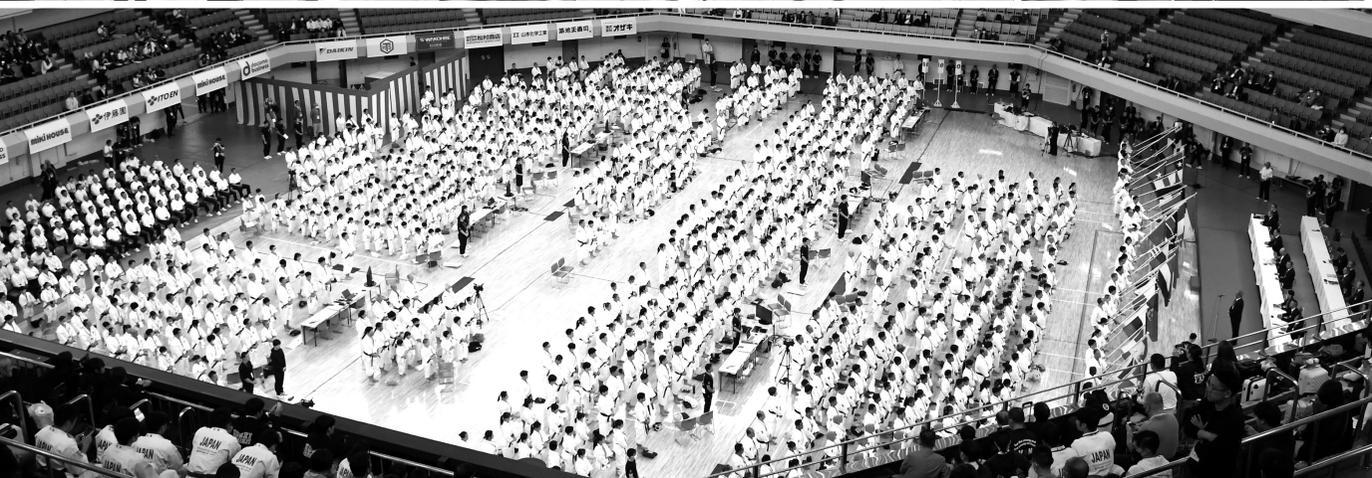


BUDŌ

# NEWS

## 今月のニュース

2023 年少林寺拳法世界大会  
in Tokyo, Japan



2023 SHORINJI KEMPO World Taikai in Tokyo, Japan

# 少林寺拳法の祭典

世界3千名の拳士が演武披露





2023年少林寺拳法世界大会（主催：少林寺拳法世界連合、少林寺拳法連盟）が10月7・8日の2日間、日本武道館で開催された。4年に一度開催の少林寺拳法の世界大会は、新型コロナウイルスの影響で2年前が中止となり6年ぶりの開催。また、日本での開催は大阪大会以来10年ぶり。

大会には日本を含め世界24カ国から約3000名の拳士が修練の成果を存分に発揮した。

全35部門（本選の部25部門、発表の部8部門）が行われたほか、世界各国のデモンストレーション演武や日本文化を体験するアトラクションが披露された。自国以外の文化に触れる貴重な機会に、会場は大きな賑わいを見せた。

また、今大会はインターネットスポーツメディア「スポーツブル」にて全試合場の様子がライブ配信された。



# 2023年少林寺拳法世界大会 in Tokyo, Japan

テーマ

『～世界の平和に貢献せんことを期す～／仲間と共に、そして理想境に向かって』

デモンストレーション①・演武披露



New Zealand



U.S.A



Sri Lanka



Kyrgyzstan



Netherlands



Spain



Indonesia

1日目 (予選ラウンド・デモンストレーション①)

開会式の後、2日目の本選出場をかけた日本国内の予選ラウンドが行われた。少林寺拳法連盟主催の全国大会や世界大会代表選考会を経て選出された出場拳士たちは、各コートで洗練された技や演武を披露した。すべての予選ラウンドが終了した後、第1のデモンストレーションと

して少林寺拳法世界連合（WSK）に加盟する11カ国による演武披露が行われた。伝統民族の踊りが組み込まれた演武や、次々と華麗なフオーメーションが入れ替わる演武など、個性豊かに演出された各国の演武に、会場の拳士と観客は拍手を送った。

日本武道館の単行本

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

# マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授  
田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一  
吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！

マンガ 武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課まで  
TEL 03-32 16-5147



## 2日目 (予選ラウンド・本選)

2日目の開会式には、出場国の国旗・地域旗が入場した。旗手はひな壇の前に一列に並び、大道場の天井に向けて高く旗を掲げた。鎮魂行の後、宗昂馬大会会長が「6年ぶりの世界大会を、この日本武道館で開催できることをとても嬉しく思います。どうか競技の結果にとらわれず、世界の仲間たちと少林寺拳法を通して、自由と愛と平和を学び、楽しんでください。この世界大会が、今後の皆さんの人生の糧になることを願っています」と、英語を交えながら開会の挨拶をおこなった。

続けて、論文の部の最優秀賞受賞者による発表が行われ、18歳以下の

部から若林晏衣（日本）、19歳以上の部からデビット・チアゴ・ミゲル・ルーアハ（ポルトガル）が登壇し、論文を発表した。

世界大会の本選が始まると、息の合った団体演武や組演武、気合の漲る単独演武が各会場で繰り広げられた。精いっぱい演武を披露する世界各国の拳士たちに、会場の観客やコートの周りで待機する出場拳士たちは大きな拍手を送った。また、表彰の対象となる本選の部のほか、発表の部として、ファミリー（親子演武）、マイシード（障がい者演武）、インターナショナル（所属国を超えた組演武）などの部門も開催された。



大会会長挨拶  
宗昂馬少林寺拳法世界連合会長



鎮魂行  
主座・荒井章士



論文発表を真剣に聞く出場拳士たち



論文の部（19歳以上）  
最優秀賞  
デビット・チアゴ・ミゲル・ルーアハ（ポルトガル）



論文の部（18歳以下）  
最優秀賞  
若林晏衣（日本）



会場の各所で広がった国際交流の輪



観戦する宮田亮平名誉大会会長  
（前文化庁長官・左）

本選の部・最優秀賞の演武



一般女子三段以上 (組演武) 日本/山本瀬菜、笹川理菜



一般男子四段以上 (組演武) 日本/合田仁一郎、大西千匡



アンダー 12 (組演武)  
日本/白濱芽花、高木杏



単独演武男子有段 日本/城澤大河



男子マスターズ (組演武)  
日本/山崎武宏、大崎剛



一般 (団体演武) 日本/高橋右京、谷龍一、那須心星、村社光翼、山口輝、三谷聡伸、前田琉慧、川崎空人、天野正輝、小林伽唯吏

アンダー 15 (団体演武) 日本/和田ゆりあ、竹山桜子、藤本風、大原琉愛、竹山橙子、鬼頭由奈



アンダー 12 (団体演武) 日本/李美恵佳、横井勇大、瀬谷洸惺、乾愛咲、片岡虎鉄、戎子涼弥、高橋凜乃、上野志翔、高橋神威、戎子芯平



## 発表の部



### 団体演武（ファミリー）

家族（2家族の合同も可）を中心、または同じ都道府県所属の高齢者同士の4名以上の集団で演武。



### マイシード

様々な障がいを持つ拳士が演武を発表。  
目の不自由な拳士（写真）が、パートナーの手拍子で位置を確認しながら、日々の修練の成果を存分に披露していた。



### インターナショナル

所属国を超えた拳士たちによる団体および組演武。



### 団体演武（ファミリー）

7～9歳の拳士が組演武を発表。

# 老若男女の各国拳士たちが 鍛えた技を披露



## 【大会結果】

### ■男子マスターズ（組演武）

- ▶最優秀賞＝山崎武宏（六段）、大崎剛（五段）／日本
- ▶優秀賞＝神保隆志（五段）、亀井貴史（五段）／日本
- ▶優良賞＝片山英樹（五段）、近内俊介（五段）／日本
- ▶敢闘賞＝大森一浩（六段）、門谷政智（五段）／日本  
ジアンニ・ランブルジ（三段）、マリオ スカル  
ラタ（三段）／イタリア  
伊藤宏治（七段）、荒井英俊（六段）／日本

### ■女子マスターズ（組演武）

- ▶最優秀賞＝吉野有紀（六段）、井上理栄子（三段）／日本
- ▶優秀賞＝早田節子（五段）、片庭美穂（三段）／日本
- ▶優良賞＝齋藤友紀（三段）、古橋麻衣子（初段）／日本
- ▶敢闘賞＝ロッタ・ウェルサル（三段）、ロヴィサ・アクセ  
レジョンソン（四段）／スウェーデン  
カズコ・ノイチ（四段）、アツミ・カナエ（四段）  
／ニュージーランド  
ヌルル・アスマ・シャミダン（五段）、ティエ・  
ユリアンティ（五段）／インドネシア

### ■一般男子四段以上（組演武）

- ▶最優秀賞＝合田仁一郎（四段）、大西千匡（四段）／日本
- ▶優秀賞＝松本圭司（六段）、坂田浩司（五段）／日本
- ▶優良賞＝谷龍一（四段）、三谷聡伸（三段）／日本
- ▶敢闘賞＝竹井祐二（四段）、築地飛武（四段）／日本  
小澤晴太（五段）、青木賢祥（四段）／日本  
加藤利彦（六段）、加藤智弘（五段）／日本

### ■一般男子三段（組演武）

- ▶最優秀賞＝河原真二（三段）、木村柊太（三段）／日本
- ▶優秀賞＝箕浦健介（三段）、古川晴也（三段）／日本
- ▶優良賞＝レビー・プラタマ・シャム（三段）、エリック・  
サブトラ（三段）／インドネシア
- ▶敢闘賞＝関口彩春（三段）、木寺悠太（三段）／日本  
アクバル・スリヤディナタ（三段）、ケイ・イマ  
ヌエル（三段）／インドネシア  
ラシッド・グエンドウズ（三段）、ノエル・リー  
（三段）／フランス

### ■一般男子二段（組演武）

- ▶最優秀賞＝ユスタンティノ・エルマセル（二段）、ディオ  
ニシウム・ラムリ（二段）／インドネシア
- ▶優秀賞＝齋藤巧弥（二段）、齋藤旭（初段）／日本
- ▶優良賞＝藤村憲（二段）、鶴川真吾（二段）／日本
- ▶敢闘賞＝芝田壮（二段）、高橋飛翔（二段）／日本  
ブルーノ・パトリシオンルバ（初段）、ホアオ・  
ペドロ（二段）／ポルトガル  
ダビット・アレクサンダー・リベイロ（二段）、  
ファオ・ペドロ・テイヘイラ・マガリャエス（二  
段）／ポルトガル

### ■一般男子初段（組演武）

- ▶最優秀賞＝深澤遥仁（初段）、池田巨輝（初段）／日本
- ▶優秀賞＝園田凜之介（初段）、岡本歩夢（初段）／日本
- ▶優良賞＝シブリアヌス・パルベノ（初段）、ザカリアス・  
ナイメナ（初段）／インドネシア
- ▶敢闘賞＝越智健生（初段）、杉村大志（初段）／日本  
レオナルド・リオ・アレクサンダー（初段）、デ  
イビッド・スタント（初段）／インドネシア  
アリス・ブルノモ（初段）、アデ・コテア・サブ  
トラ（初段）／インドネシア

### ■一般男子級拳士（組演武）

- ▶最優秀賞＝ギルベルト・ファレリノ・トトモネ（1級）、  
アリスト・ナベン（1級）／インドネシア
- ▶優秀賞＝木下步孝（1級）、平景虎（1級）／日本
- ▶優良賞＝ディディ・ラヒム・ラマダン（1級）、ムハマド・  
ファツル・ラマン（1級）／インドネシア
- ▶敢闘賞＝日暮翔（1級）、サンチェス・アレクシス・テタ  
ンコ（1級）／日本  
上田隼人（3級）、三輪剛之（3級）／日本  
ルネース・アヴドゥ（2級）、ティマド・アヴド  
ウ（3級）／フランス

### ■一般女子三段以上（組演武）

- ▶最優秀賞＝山本瀬菜（四段）、笹川理菜（四段）／日本
- ▶優秀賞＝小川璃子（三段）、齋藤美優（四段）／日本
- ▶優良賞＝高橋明日香（四段）、山本望（四段）／日本
- ▶敢闘賞＝ナンディカ・ララサティ（三段）、ティルサ・ア  
ユンダ・リザルディ（三段）／インドネシア

### ■一般女子二段（組演武）

- ▶最優秀賞＝郡山悠（二段）、阿菰品花音（二段）／日本
- ▶優秀賞＝ヌル・インダー・エカヤンティ（二段）、ユリア・  
サリ（二段）／インドネシア
- ▶優良賞＝古口沙羅（初段）、千葉真衣（二段）／日本
- ▶敢闘賞＝竹内妃桜（初段）、長田心愛（二段）／日本  
マリー・バレンティン（二段）、オーレリー・ロ  
シェル（二段）／フランス

### ■一般女子初段（組演武）

- ▶最優秀賞＝國吉咲月（初段）、鹿喰美乃里（初段）／日本
- ▶優秀賞＝イングキー・ピニス（初段）、ファトリア・ディ  
フォバンティ・ラジ（初段）／インドネシア
- ▶優良賞＝與語優那（初段）、芝野美羽（初段）／日本
- ▶敢闘賞＝関音葉（初段）、橋本あかり（初段）／日本  
ワンダー・アニサ・サブリーナ・アリヤ・ファウ  
ジア（初段）、カトリナ・ビルギタ・トウウ（初  
段）／インドネシア  
ダニエラ・ヴァスコダシルバ（初段）、イネス・  
ファリバ・ジェロニモ・サントス（初段）／ポ  
ルトガル

### ■一般女子級拳士（組演武）

- ▶最優秀賞＝アビバ・アメリア・イスカンダル（1級）、デ  
ィンダ・リズキ・アマリア（1級）／インド  
ネシア
- ▶優秀賞＝デウィンダ・ペリナ・ピニス（1級）、ロマンナ・  
ケンシ・バラ（1級）／インドネシア
- ▶優良賞＝ララサティ・サンドラ・デビ（1級）、レナステ  
ィ・ブラティウィ（1級）／インドネシア
- ▶敢闘賞＝佐藤菜々美（2級）、松下絢葉（2級）／日本  
戸田唯葵（3級）、本郷祥千（3級）／日本  
金田弥桜（3級）、大谷娃夢（4級）／日本

### ■女子護身技法有段（組演武）

- ▶最優秀賞＝荒井大輝（三段）、三枝芽衣（四段）／日本
- ▶優良賞＝重里海斗（二段）、三笠七海（三段）／日本
- ▶優良賞＝ランディカ・アロディ（三段）、ハフサ・ラティ  
ファ・カイルニサ（三段）／インドネシア
- ▶敢闘賞＝喜多あみる（三段）、玉井良侑（三段）／日本  
ムハマド・サムシヤル（二段）、ソラヤ・アフア  
ファ（二段）／インドネシア  
ハナ・セドバーク（三段）、アルノー・ティケ（四  
段）／スウェーデン

（143ページに続く）

デモンストレーション③・錫杖演武



デモンストレーション②・運用法披露



2日目 (デモンストレーション②・③、閉会式)

本戦終了後、第2のデモンストレーションとして、アメリカ・フランス・インドネシア・日本の4カ国が、それぞれの国で行われている運用法の披露が行われた。その後、第3のデモンストレーションとして、東京都少林寺拳法連盟による錫杖の演武披露が行われた。

閉会式では、本選演武の表彰式・メダル授与、各国連盟の継続表彰が行われた後、渡辺待男大会実行委員長が「今後とも皆様と互いに協力しあつて、少林寺拳法という文化を良いものにしていきたいと思います」と謝辞を述べた。その後、大会アトラクションとして、神田鍛冶町二丁目会による御神輿の披露が行われた。御神輿を担いだ協会員たちが、祭囃子に合わせ大道場を練り歩き、会場の拳士・観客は「わっしょい、わっしょい」と掛け声をかけた。

最後に村瀬晃啓大会副実行委員長が閉会の挨拶を行い、大会は盛会裡に終了した。



前回大会(カリフォルニア)以降に節目の年を迎えた次の10カ国の連盟が継続表彰を受賞した。日本(60周年)、フランス(50周年)、マレーシア(30周年)、スペイン(20周年)、フィンランド(20周年)、ドイツ(20周年)、アメリカ(10周年)、スイス(10周年)、ウクライナ(10周年)、イギリス(10周年)



大会実行委員長謝辞  
渡辺待男東京都少林寺拳法連盟理事長



神田鍛冶町二丁目会による御神輿渡御

(大会結果つづき)

■女子護身技法級拳士 (組演武)

- ▶最優秀賞=米澤咲哉 (2級)、吉村希海 (2級) / 日本
- ▶優秀賞=前越佳音 (2級)、平木良和 (5級) / 日本
- ▶優良賞=三浦大知 (3級)、河上紗歌 (3級) / 日本
- ▶敢闘賞=アンバー・ノエ (2級)、コリン・ブライアン・ボワーズ (3級) / アメリカ  
ヒクマル・ファウザン・アブラル (1級)、ア  
ニサティア・サブトリ (1級) / インドネシ  
ア

■アンダー 15 男子 (組演武)

- ▶最優秀賞=加藤心 (初段)、加藤結仁 (初段) / 日本
- ▶優秀賞=大村航太郎 (二段)、中村悠希 (二段) / 日本
- ▶優良賞=前田明樹 (二段)、小池康成 (初段) / 日本
- ▶敢闘賞=レイ・ヤマモト (初段)、カイカワグチ (2級)  
/ アメリカ  
ハティム・ケイ (初段)、タヘル・ケイ (初段)  
/ インド  
ムスカ・アルクマー (初段)、ブラットヤッ  
シュ・ゴウラ (初段) / インド

■アンダー 15 女子 (組演武)

- ▶最優秀賞=竹山桜子 (二段)、藤本凧 (初段) / 日本
- ▶優秀賞=岩田笑 (二段)、仲川実希 (初段) / 日本
- ▶優良賞=小野緒心 (初段)、甲斐星凜 (初段) / 日本
- ▶敢闘賞=アゼティ・ナイラ・タビナ (1級)、アラ・ア  
ングライニ (1級) / インドネシア

■アンダー 12 (組演武)

- ▶最優秀賞=白濱芽花 (初段)、高木杏 (1級) / 日本
- ▶優秀賞=森谷雅優 (3級)、山田実咲 (3級) / 日本
- ▶優良賞=向井天麻 (初段)、藤田結 (2級) / 日本
- ▶敢闘賞=インドラ・ブルナマ・タンバニ (3級)、カイ  
ラツ・アロジャ・カンザ (3級) / インドネ  
シア  
ユバ・サンダーソン (1級)、アマラ・アルン  
クマー (1級) / インド

■男子有段 (単独演武)

- ▶最優秀賞=城澤大河 (日本・三段)
- ▶優秀賞=小田翔 (日本・三段)
- ▶優良賞=青木蓮弥 (日本・四段)
- ▶敢闘賞=フェルナンド・モデストス・アラエ・バラ  
(インドネシア・初段)  
マリオ・モニス・ベレ (インドネシア・初段)  
ダン・サンボア (カンボジア・三段)

■男子級拳士 (単独演武)

- ▶最優秀賞=カダン・ムルヤネ・グスティ  
(インドネシア・1級)
- ▶優秀賞=澤野なつき (日本・1級)
- ▶優良賞=ベレル・イマヌエル・クフリマ  
(インドネシア・1級)
- ▶敢闘賞=小寺正弘 (日本・1級)  
樋口集斗 (日本・4級)  
ジョハネストラエゲル (ドイツ・4級)

■女子有段 (単独演武)

- ▶最優秀賞=河原やよい (日本・三段)
- ▶優秀賞=中谷亜美 (日本・三段)
- ▶優良賞=三上らむ (日本・二段)
- ▶敢闘賞=ダニエタ・エルリンダ・ベラビアナ  
(インドネシア・三段)  
ナイラ・アフヤ・シャルフィナ・アスワ  
(インドネシア・初段)  
リニ・アニタ (インドネシア・三段)

■女子級拳士 (単独演武)

- ▶最優秀賞=松谷咲歩 (日本・2級)
- ▶優秀賞=駒井一菜 (日本・2級)
- ▶優良賞=一甲夏希 (日本・2級)
- ▶敢闘賞=メイシャ・ヌルマヤ・ブツ (インドネシア・1級)  
ナウラ・ラマダニ・アスワリ  
(インドネシア・11級)  
ビクトリア・ヒデン (スウェーデン・3級)

■一般 (団体演武)

- ▶最優秀賞=日本 [高橋右京 (四段)、谷龍一 (四段)、那  
須心星 (四段)、村社光翼 (三段)、山口輝 (三  
段)、三谷聡伸 (三段)、前田瑠慧 (三段)、川  
崎空人 (三段)、天野正輝 (三段)、小林伽唯吏 (三  
段)]
- ▶優秀賞=日本 [松本圭司 (六段)、坂田浩司 (五段)、大  
西美咲 (三段)、山田紫園 (三段)、阿菺品泰輝 (三  
段)、豆山陽哉 (二段)、大西彪雅 (四段)、長田  
洵雲 (二段)、大河内永遠 (二段)]
- ▶優良賞=日本 [中原莉紫 (三段)、中谷亜美 (三段)、岡  
田凜 (三段)、河原真二 (三段)、萩原嗣也 (三段)、  
御宮知大貴 (三段)、木村柗太 (三段)、鎌田由典 (三  
段)、黒木智廣 (三段)、鶴川真吾 (二段)]
- ▶敢闘賞=インドネシア [アリスト・ナベン (1級)、ファ  
クトリア・デルファバンティ・ラジャ・フキ (初  
段)、ゲベリン・ラデウィラ (1級)、ベレル・  
イマヌエル・クフリマ (1級)、ダニエタ・ベラ  
ビアナ (三段)、マリオ・モニス・ベレ (初段)、  
アクバル・スリャディナタ (三段)、ケイ・イマ  
ヌエル (三段)、ナンディカ・ララサティ (三段)、  
ハギエス・ムガラ (三段)、アディンダ・プトリ  
ソフヤン (三段)、ティルサ・アユンダ・リザル  
ディ (三段)]  
インドネシア [アドイタ・サブトラ (二段)、ス  
シ・スタンティ (二段)、ムハマド・スムシヤル  
(二段)、ソラヤ・アフアファ (二段)、ムハマド  
アミン (二段)、エリス・ヌルル・フダ (二段)]

■アンダー 15 (団体演武)

- ▶最優秀賞=日本 [和田ゆりあ (二段)、竹山桜子 (二段)、  
藤本凧 (二段)、大原琉愛 (初段)、竹山橙子 (初  
段)、鬼頭由奈 (初段)]
- ▶優秀賞=日本 [黒井千路 (4級)、羽田小町 (3級)、北  
出桃香 (初段)、白濱苺香 (初段)、櫻井隆太 (2  
級)、奥野佑樹 (2級)、羽田侃太郎 (2級)、姉  
崎結 (初段)、本田明莉 (初段)]
- ▶優良賞=日本 [外山莉湖 (初段)、井上航 (初段)、風谷  
大翔 (初段)、吉田実生 (初段)、大岩咲芭 (初段)、  
井上晴 (初段)、大岡三紗 (初段)、東口悠生 (初段)]

■アンダー 12 (団体演武)

- ▶最優秀賞=日本 [李美惠佳 (初段)、横井勇大 (初段)、  
瀬谷洸惺 (初段)、乾愛咲 (3級)、片岡虎鉄 (3  
級)、戎子涼弥 (3級)、高橋凜乃 (3級)、上  
野志翔 (4級)、高橋神威 (4級)、戎子苺平 (5  
級)]
- ▶優秀賞=日本 [土屋和貴 (初段)、大嵩治季 (初段)、吉  
田湧人 (2級)、吉田吏玖 (2級)、宮崎新太 (4  
級)、藤島魁士 (5級)]
- ▶優良賞=日本 [白濱芽花 (初段)、高木杏 (1級)、黒井  
爽陽 (2級)、北出心奈 (1級)、青山遼 (2級)、  
羽田丞之介 (6級)、壽健汰 (6級)、櫻井蒼太 (3  
級)]

# 2023世界相撲選手権大会

日本勢

個人戦で男子重量級・草野直哉、  
女子無差別級・久野愛莉、男子団体戦で金メダル



重量級・決勝＝草野（右）が寄り切りで勝利



2023世界相撲選手権大会が10月8日、東京・アリーナ立川立飛で開催され、世界28カ国・地域42名の選手が参加した。前日の7日には、2023世界ジュニア相撲選手権大会が開催された。開催は大阪・堺大会以来4年ぶり。

世界選手権大会は、個人戦として、軽量級、中量級、軽重量級、重量級、無差別級、団体戦の6部門が行われ、男子重量級・草野直哉（日本大）、女子無差別級・久野愛莉（東洋警備保障）、男子団体戦で日本が金メダルを獲得した。

世界ジュニア選手権大会は軽重量級を除いた5部門で熱戦が繰り広げられ、日本勢が男女合わせて7部門で金メダルを獲得した。

## 世界相撲選手権大会

### 【個人戦】

#### ■軽量級

優勝Ⅱセミクラスヴィアトスラブ

(ウクライナ)

2位Ⅱアグアマリエフロヤル

(アゼルバイジャン)

3位Ⅱ奥知久(日本体育大)

3位Ⅱドツチェフペンチヨ

(ブルガリア)

日本の奥は優勝したセミクラスに2回戦で敗れる。敗者復活戦を勝ち

上がり迎えた3位決定戦。シャルアボルジ(モンゴル)に叩き込みで勝利。3位入賞を果たした。

#### ■中量級

優勝Ⅱクルフスキエホー

(ウクライナ)

2位Ⅱ龍山和彦(瀬戸内町役場)

3位Ⅱドンガクスルデ

(キルギスタン)

3位Ⅱクルマラハヌー

(フィンランド)

龍山は国際大会初出場ながらも決勝まで勝ち上がる。決勝戦はクルフ

スキが寄り切りで龍山を下し、龍山は2位に入賞した。

#### ■軽重量級

優勝Ⅱダイアウリワジャ

(ウクライナ)

2位Ⅱ三輪隼斗(ソディツク)

3位Ⅱバーサンドルジュバドラ

(モンゴル)

3位Ⅱロズニアロン(ポーランド)

三輪は5度目の国際大会の舞台。決勝の相手は昨年ワールドゲームズ中量級王者のダイアウリ。試合はダイアウリが下手出し投げで勝利。

三輪は2位入賞となった。

#### ■重量級

優勝Ⅱ草野直哉(日本大)

(モンゴル)

2位Ⅱカンガイナランバヤル

(ポーランド)

3位Ⅱピエルシアクイエチエック

3位Ⅱジェラセラシヤ(ジョージア)

世界大会初出場の草野は力強い相撲で決勝まで勝ち上がる。決勝ではモンゴルのカンガイと対戦。草野は立ち合いから右四つで一気に寄り切つて勝利。日本勢に初の金メダルを



軽量級・3位決定戦=奥(右)



中量級・決勝=龍山(左)は寄り切りで敗れる



軽重量級・決勝=三輪(下)は下手出し投げで敗れる



重量級入賞者(写真左が草野)

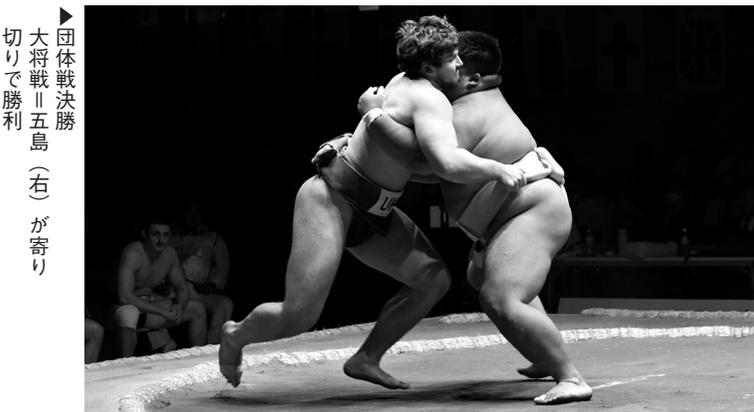


無差別級・3位決定戦=松園が押し出して勝利



◀団体戦決勝  
先鋒戦=草野(右)  
が寄り切りで勝利

▼団体戦決勝中堅戦  
=松園(右)が押し  
倒して勝利して  
優勝を決める



▶団体戦決勝  
大将戦=五島(右)  
が寄り  
切りで勝利

もたらした。

■無差別級

優勝Ⅱヴェレシウクアレクサンドル

(ウクライナ)

2位Ⅱナムスライジャウバツウリ

(モンゴル)

3位Ⅱ松園大成(長崎県)

3位Ⅱゴンザレスマルゲリフ

(エストニア)

松園は優勝したヴェレシウクに初

戦で敗れる。その後敗者復活戦を勝

ち上がり、3位決定戦では、ジョー

ジアのハツツイカツイに押し出して

勝利し入賞を果たした。

【団体戦】

優勝Ⅱ日本

2位Ⅱウクライナ

3位Ⅱモンゴル、ジョージア

日本は先鋒・草野、中堅・松園、

大将・五島雅治(拓殖大)の布陣で

挑んだ。モンゴルとの準決勝を制

し、前回3位のウクライナとの決勝

に臨んだ。先鋒戦、草野は無差別級

王者のヴェレシウク相手に寄り切り

で勝利。中堅戦は松園と軽量級王者

のセミクラスの対戦。試合は体格で

勝る松園がセミクラスを押し倒し

勝利。この時点で日本の優勝が決ま

り、場内は大歓声に包まれた。大将

戦は五島と軽重量級王者のダイヤウ

リの対戦。五島が寄り倒したかに思

えたが、待ったがかかり取り直しと

なる。取り直しの一戦は、五島が文

句なしの寄り切りでダイヤウリに勝

利。3-0で日本が王座を奪還した。



団体戦優勝＝日本（左から草野、松園、五島、三輪）



中量級・3位決定戦＝長谷川（左）が押し出しで勝利

■世界女子相撲選手権大会

【個人戦】

■中量級

優勝Ⅱコレスニツクカリナ

（ウクライナ）

2位Ⅱモトゴメリワタナベヒグチ

ルシアーナ（ブラジル）

3位Ⅱ長谷川理央（慶應義塾大）

3位Ⅱスキバモニカ（ポーランド）

100年を超える歴史を持つ慶應義塾大相撲部で初の女子選手としても注目される長谷川は、準決勝でコレスニツクに敗れる。

3位決定戦では、ハンガリーのバジエルに押し出しで勝利。3位入賞を果たしたが、長谷川は土俵の上で悔しさを滲ませた。



女子重量級・決勝＝ベレズスカ（奥）が押し出して勝利

■重量級

優勝Ⅱベレズスカイヴァナ

（ウクライナ）

2位Ⅱ今日和（アイシン）

3位Ⅱボールケリアン（アメリカ）

3位Ⅱチュースリーカンカニ（タイ）

前回2位の今が決勝進出。決勝で

はウクライナのベレズスカの力強い

押しに体が反転してしまいそのまま

押し出され敗退。前回大会に続き2

位入賞となった。

■無差別級

優勝Ⅱ久野愛莉（東洋警備保障）

2位Ⅱフリセスキャシリー

（ノルウェー）

3位Ⅱクリステックスザンナ

（ポーランド）

3位Ⅱサラックヴィクトリア

（ウクライナ）

全日本女子相撲選手権大会で無差

別級5連覇の久野が世界の強豪と激

突。決勝戦はノルウェーのフリセス

と対戦。試合は久野が左四つに組

み、そのまま寄り切りで勝利。悲願

の初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ久野愛莉選手

「すごい嬉しいです。世界の選手は

力が強くて勝つのが大変でした。100



無差別級・決勝＝久野（左）が寄り切りで勝利

％の力が出せてよかったです」

### 【団体戦】

優勝 Ⅱ ウクライナ

2位 Ⅱ 日本

3位 Ⅱ ポーランド、アメリカ

日本は先鋒・今日和、中堅・角田  
奈那（日本大）、大将・久野が出場。

決勝戦まで勝ち上がり、ウクライナ

と優勝をかけた熱戦を繰り広げた。  
先鋒の今が上手投げでモレンコに勝  
利。しかし、中堅戦で角田が女子軽  
重量級王者のマキシメンコに寄り切  
られ敗北。勝敗は大将戦に委ねられ  
た。大将戦は無差別級王者の久野と  
重量級王者のベレゾスカの対戦。試  
合は送り出してベレゾスカの勝利。  
日本は1―2で優勝を逃した。



▶女子団体決勝・大  
将戦Ⅱ久野（左）  
が送り出され敗北



◀団体決勝・先鋒戦＝  
今（右）が上手投げ  
で勝利



団体戦優勝＝ウクライナ（左からベレゾスカ、マキシメン  
コ、モレンコ、ツァルク）



団体戦2位＝日本（左から阿部、今、久野、角田）



重量級・決勝＝西出（奥）が掬い投げで勝利



◀中量級決勝  
三橋（手前）が上手捻りで勝利



▶団体戦決勝  
中堅戦Ⅱ西出（左）が突き出して勝利



◀無差別級決勝  
野田（手前）が寄り倒して勝利

■世界ジュニア相撲選手権大会

【個人戦】

■中量級

優勝Ⅱ三橋条ノ真（鳥取城北高）

2位Ⅱオリヴェイラフレイタス  
（ブラジル）

3位Ⅱアクバルディアダヴィテイ  
（ジョージア）

3位Ⅱギユリスカマルセル  
（ハンガリー）

三橋は決勝戦でブラジルのオリヴェイラと対戦。三橋が上手捻りで勝利し、優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ三橋条ノ真選手

「嬉しいですね。外国人選手の力の強さを感じました。国体も頑張ります」

■重量級

優勝Ⅱ西出大毅（和歌山商業高）

2位Ⅱアルタンゲレルデルゲルバト  
（モンゴル）

3位Ⅱロペスマテウス（ブラジル）

3位Ⅱニシザキウーラバト（タイ）

西出は決勝でモンゴルのアルタンゲレルと対戦。西出が土俵際で粘りをみせ、掬い投げで勝利。初の栄冠を手にした。

◎優勝Ⅱ西出大毅選手

「世界の選手と相撲を取るののは初めてだったので、最初は怖さもありました。自分らしい相撲を取れて勝つことができよかったです。国体でも優勝できるように頑張ります」

■無差別級

優勝Ⅱ野田典雅（箕島高）

2位Ⅱアルタンスーラグチャースレン  
（モンゴル）

3位Ⅱマカロフイエフン（ウクライナ）

3位Ⅱボルヴェルクカリス  
（エストニア）

決勝で野田はモンゴルのアルタンスーに寄り倒して勝利し、優勝を果たした。

【団体戦】

優勝Ⅱ日本

2位Ⅱブラジル

3位Ⅱモンゴル、エストニア

決勝で日本は先鋒・斎藤忠剛（埼玉栄高）、中堅・西出、大将・野田の布陣でブラジルと対戦した。先鋒の斎藤がロペスに寄り倒して勝利。

中堅戦で西出がルイスを突き出して勝利。この時点で日本の優勝が決まった。大将戦は中量級2位のオリヴェイラが野田を内掛で下して勝利。2-1で日本が王座を死守した。



女子無差別級・決勝=石井(右)が寄り倒して勝利

▶中量級決勝  
矢口(左)が押し出して勝利



団体戦優勝=日本(左から阿部、石井、矢口)



女子団体・決勝中堅戦=石井(右)が寄り切りで勝利

■世界ジュニア女子相撲選手権大会

【個人戦】

■中量級

優勝|| 矢口愛利菜(東九州龍谷高)

2位|| チョーツーニン(台湾)

3位|| アマルルスガワラインゲリ

ツドハルミ(ブラジル)

3位|| ルコスカソフイア(ウクライナ)

矢口は決勝戦でチョーツーニンと対戦。立ち合いからの速攻でチョーを押し出し勝利。優勝を手にした。

■無差別級

優勝|| 石井さくら(足立新田高)

2位|| コンスタンティノヴァダリア

(ウクライナ)

3位|| キリマンカイ(エストニア)

3位|| コニスエスカカミラ(ポーランド)

3度目の世界ジュニア選手権挑戦の石井は順調に決勝まで勝ち上がる。決勝はコンスタンティノヴァと対戦。試合は石井が体勢を崩されるも耐え、最後は寄り倒して勝利。3度目の挑戦で頂点に立った。

◎優勝|| 石井さくら選手

「3度目の正直でようやく優勝できました。レベルの高さを感じ緊張しました。最高の1日になりました」

【団体戦】

優勝|| 日本

2位|| ポーランド

3位|| 台湾、ウクライナ

日本は先鋒・矢口、中堅・石井、大将・阿部(紫雲寺中)の布陣で臨んだ。決勝はポーランドとの対戦。矢口が上手投げを決め、1勝を取る。中堅戦は石井が立ち合いから一気に寄り切り勝利。この時点で日本の優勝が決まった。大将戦は阿部が押し出して勝利。3-0で有終の美を飾った。



会場になったアリーナ立川立飛

天皇盃第74回全日本男子弓道選手権大会

優勝Ⅱ原田友康教士七段(愛知)

原田友康 教士七段  
(愛知) が皆中で  
初優勝を飾る

皇后盃第 56 回全日本女子弓道選手権大会



優勝 田中慶子五段(鹿児島)

田中慶子 五段  
(鹿児島) が初出場で  
皇后盃獲得

天皇盃第74回全日本男子弓道選手権大会・皇后盃第56回全日本女子弓道選手権大会が9月29日から10月1日の3日間、東京都渋谷区の全日本弓道連盟中央道場で開催された。全国各地の予選を通過した98名(男女ともに49名)が出場し、弓道日本一の座を争った。

男子の天皇盃(10月1日)は原田友康(愛知)が予選・決勝ともに皆中し初優勝、女子の皇后盃(9月30日)は田中慶子(鹿児島)が決勝で8中で、初出場ながら優勝に輝いた。

予選は、各選手一手(2射)を4回行い、計8射的中数と審査員による採点で決勝進出者を決める採点制で争われた。決勝進出には2射以上の的中が必須条件となり、男女ともに上位10名の選手が決勝へ駒を進めた。

決勝は各選手一手を5回行い、計10射の中数によって順位を決定する的中制で争われた。2〜5位に同率の受賞者がいる場合、順位決定戦として遠近競射(同率の選手が一つの的に矢を放ち、中心に近い順に順位を決定する)が行われた。

## ■天皇盃・男子

前回大会優勝者の山本亮介(熊本)は予選の4射を皆中。1494点を記録し、全体9位で決勝へ進出した。その他、前回大会3位の飯山雄介(宮城)や第67回大会優勝の小原裕幸(島根)が決勝に進出。決勝進出者10名のうち、皆中7名とハイレベルな戦いが繰り広げられた。

今大会の最高得点賞は、初出場の矢野翼(宮崎)が1533点で受賞した。なお、前回大会まで5年連続最高得点賞を受賞している坂本達雄(青森)は、4射全て失中してしま

い無念の予選敗退を喫した。

決勝戦、3回目終了時点で、原田、矢野、櫻田紀行(香川)が皆中、連覇を狙う山本は3中に終わる。

4回目終了し、原田、矢野の皆中が続く。櫻田が7射目を辛くも外し7中となり、6中の飯山、木塚鉄也(愛知)が櫻田の後に続く。山本は7・8射目をともに的中させるが途中結果は8射5中。残り2射での逆転が不可能となり、優勝争いから脱落する。

運命の5回目、原田、矢野がともに9射目を中<sup>あ</sup>て、一層会場に緊張感が満ちる。最終の10射目に矢野が放った矢は、無念にも安土に刺さり、



2位・最高得点賞=矢野翼錬士六段(宮崎)



3位=飯山雄介教士七段(宮城)

固唾<sup>かたず</sup>を呑んで見守る観客たちから大きな溜<sup>た</sup>め息が漏れた。優勝がかかる原田は、矢野の失中に惑わされることなく渾身<sup>こんしん</sup>の一矢を放つ。原田の矢が的に刺さる快音が響くと、会場から大きな拍手が上がった。原田は、予選と決勝の全14射を皆中し、初優勝を手中に収めた。

決勝終了後に8中の3名で遠近競射が行われ、3位・飯山、4位・木塚、5位・櫻田と順位が決定した。



男子開会式（9月30日）・矢渡し  
川村光良範士八段



4位＝木塚鉄也教士七段（愛知）



5位＝櫻田紀行教士七段（香川）

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近 競射	順位		
			的中数	得点	順位	1回目		2回目		3回目		4回目		5回目						
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩					
1	山本 亮介	熊本	4	1494	9	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	7		
2	成田 祐也	秋田	4	1524	2	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	7		
3	木塚 鉄也	愛知	4	1494	10	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	8	2	4
4	小原 裕幸	島根	3	1495	8	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×	○	×	5		
5	矢野 翼	宮崎	4	1533	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	9		2
6	飯山 雄介	宮城	3	1511	5	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	8	1	3
7	咲川 雅敏	石川	4	1507	6	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	7		
8	櫻田 紀行	香川	3	1500	7	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	8	3	5
9	原田 友康	愛知	4	1520	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10		1
10	吉田 志	熊本	4	1513	4	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	7		

○男子優勝者インタビュー



原田友康教士七段（愛知）

——優勝決定直後の原田選手に、決勝戦の感想を伺った。

「終わってほっとした部分もありますが、すでにちよつと寂しくなってきました。3回目の出場にして初めて決勝の舞台に立ちましたが、最初から最後までワクワクした気持ちで

いっぱいでした。この時間が長く続いてほしいと感じていました」  
——今大会までの日々の稽古について伺った。

「先生方から『手で放しているうちは本物の射ではない』と言われてるので、なるべく体の中心から離れが出るようにと、意識的に稽古をしてきました。そういった稽古を続けていると、失敗しても矢が的の方に集中するようになってきて、今日もうまくいった矢は、真ん中辺りに集中していたと思います」

——今回審判委員席には、原田選手が師と仰ぐ澤田欣一範士八段が座つ

ていた。大舞台の中、師の前で弓を引いた心境について伺った。

「一番前の席に座られていたので、ちらちら視界に入っただけだったので、それで緊張することはなかったですね。いつもご指導いただいた先生なので、良いところをお見せできるようにと頑張りました」

——堂々の優勝に輝いた原田選手が、今後の目標を語った。

「選手権という最高峰の試合に、これからの出場し続けられるよう頑張りたいです。そしてその場で、見た人の記憶に残るような一本が引けるようになりたいと思っています」

って、『やつと入賞できた』という感じですよ。（選手権挑戦は）これが最後でもいいかもしれませんけど、もう一回チャンスがあればまた出たいですね」

▽5位 櫻田紀行教士七段（香川）

「ただただ嬉しいですよ。これまで決勝で中らなかつたり、最後の遠近競射で入賞を逃したりしていたのですが、今年はなんと5位に入賞できました。選手権大会は自分の中で一番の大会と思っているのですが、なるべく続けて参加できるようにこれからも頑張っていきたいです」

▽前回大会優勝

山本亮介教士六段（熊本）

の突破を考え、4射をしつかり中てることを目指してやっていたら、結果として賞がついてきたような感じがします。来年の出場は決定しています。だからこそ油断せずに稽古を積んで、また来年臨みたいです」

▽3位 飯山雄介教士七段（宮城）

「決勝では、序盤に失敗していたので、まさか入賞できるとは思っていませんでした。決勝中、蚊取り線香

の煙を吸ってしまい、咳が止まらなくなつたのですが、あの時は後がなかったもので、やれるところまでやってみようと思つて、射に集中しました。周りの方々や家族の協力で練習ができていたので、また一つ一つ積み重ねていきたいと思っています」

▽4位 木塚鉄也教士七段（愛知）

「選手権に出て足掛け十数年になりますが、初めて決勝に出させてもら

「前年度優勝つていうのはあまり意識していませんでした。立順が1番だったので、選手全体に勢いがつけられるよう引きました。予選の一立目からあまり調子は良くなく、決勝も前半でうまくリズムを作れず、後半から徐々に修正したのですが、駄目でした。また気持ちを新たに大会に向けて準備します」

○男子入賞者・出場選手  
コメント

▽2位・最高得点賞

矢野翼錬士六段（宮崎）

「全力でやっていたので、悔いがないと言えないのですが、一番最後に外した一射は、時間が経つてくるにつれて、どんどん悔しさがこみ上げてくるのかなと思います。（最高得点賞受賞について）ひとまず予選

■皇后盃・女子

予選では、前回大会優勝の三澤京子（神奈川）、同最高得点賞の有澤千秋（鳥取）が順当に決勝へ進出した。最高得点賞は、山田直美（大阪）が3中1541点で6年ぶり2度目の授賞を果たした。

決勝戦、田中、三澤、有澤が2回目までの4射を全体的中させる。3回目、有澤が5射目を外し、三澤は5・6射目ともに外してしまいが、田中は2射ともの中させる。4回目、三澤、有澤が7・8射目をともに的中、田中が8射目を失中。この時点で、田中、有澤が7中、三澤、

西脇早苗（岐阜）が6中で後を追う。5回目に入ると、有澤が2射失中、三澤、西脇が9射目を失中し10射目を的中、山田が2射的中と、4名が同率7中で並ぶ展開となる。

田中の9射目、中れば優勝となる場面であったが、放たれた矢は惜しくも外れる。7中同率で順位決定戦に持ち込まれると思われた最終の10射目、田中の手から鋭く放た



2位＝三澤京子教士七段（神奈川）



3位＝有澤千秋教士七段（鳥取）

好評発売中！

# 弓道 その歴史と技法

筑波大学准教授

松尾牧則 著

弓矢の発生から日本の弓術発達、技法の発展を概観し、世界の弓術も紹介。現代弓道の課題や射法にも踏み込む。



四六判・上製・484頁・定価2,640円

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部  
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158  
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



女子開会式（9月29日）・矢渡し  
澤田欣一 範士八段



4位＝西脇早苗 教士七段（岐阜）



5位・最高得点賞＝山田直美 教士七段（大阪）

れた矢は、吸い込まれるように的を  
捉え、田中が優勝を掴み取った。  
決勝終了後、2～5位の順位決定

戦の遠近競射が行われ、2位・三澤、  
3位・有澤、4位・西脇、5位・山  
田と順位が決定した。

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近競射	順位
			的中	得点	順位	1回目		2回目		3回目		4回目		5回目				
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
1	有澤 千秋	鳥取	2	1531	2	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	7	2	3
2	中村 美穂	長野	3	1480	9	○	○	○	×	×	×	○	×	○	×	5		
3	三澤 京子	神奈川	4	1517	3	○	○	○	○	×	×	○	○	×	○	7	1	2
4	山田 直美	大阪	3	1541	1	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	7	4	5
5	西脇 早苗	岐阜	4	1512	4	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	7	3	4
6	望月 久美	神奈川	3	1485	7	×	×	○	○	○	○	×	○	×	×	5		
7	田中 慶子	鹿児島	2	1482	8	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	8		1
8	千葉 香代	福島	2	1478	10	×	○	○	○	○	×	×	○	○	×	6		
9	塘 理奈	福岡	3	1498	5	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	6		
10	岩切 久美	宮崎	2	1493	6	×	×	○	○	○	×	×	○	×	○	5		

## ○女子優勝者インタビュー



田中慶子五段（鹿児島）

——試合直後のやや恐縮した様子の田中選手に、優勝の感想を伺った。

「まさか自分が優勝するなんて、今もにわか信じられなくて、皆さんに『おめでとう』と言われてじわじわと実感してきたところです。予選も2中だったので通過できる自信は

なかったのですが、決勝進出者で名前を呼ばれて、最後は思い切って引こうと思っただけでした」

——初出場ながら予選を8位で通過し、決勝を8中で優勝。9射目の失中の際には、会場から大きな溜め息が漏れた。

「会場の溜め息は聞こえていたのですが、ここで集中力を切らしてはいけなそうと思っただけで、10射目は悔いのないようにと思っただけです。やはり最後は、弱い自分との戦いだと思っただけで、そこは負けないようにと思っただけです」

——1児の母である田中選手。家族

と一緒に東京に来ているとのことだったので、会場の家族の応援も力になったのでは、と質問した。

「応援には来ていません、『遊んできていいよ』って（笑）。ただ、今日ホテルを出発する時に主人が、『頑張っただけ』と一言声をかけてくれました。それが力になったんだと思うので、これから優勝の報告をしようと思っただけです」

——今日一番の笑顔を見せた田中選手に、今後の目標を伺った。

「まだ全てが未熟なので、満足せずにもっと高みを目指して、弓道と向き合っていきたいです」

## ○女子入賞者コメント

### ▽2位Ⅱ三澤京子教士七段（神奈川県）

「昨年いっぱい課題があったんですけど、この大会でその練習の成果が少しだけでも出せたことがよかったです。最初の方は集中していたんですけど、やはり最後までその気持ちが続かなかつたのがこの2位という結果なのかなって思うので、基本に則

った射を目標をもってこれからの稽古に臨んでいきたいです」

### ▽3位Ⅱ有澤千秋教士七段（鳥取）

「自分としては上手くできたつもりだったんですけど、最後の最後で甘いとこが出てしまっただけです。今回、最高得点賞をいただきたい前大会よりいい点をいただきましたが、まだまだ課題は克服できていない感じがしています。また基礎

に返って、この大会で自分の思った納得のできる射ができるように頑張っただけです」

### ▽4位Ⅱ西脇早苗教士七段（岐阜）

「毎年、『これで最後』と思っただけです。今回、全日本出場にあたって、多くの方々の応援をいただきました。ややプレッシャーにも感じていた部分もあるのですが、結果を残すことができ良かったです」

す。皆さんの応援があつての入賞だと思っただけです」

### ▽5位・最高得点賞Ⅱ

#### 山田直美教士七段（大阪）

「（最高得点賞について）柵からぼた餅のようで非常にありがたく思っています。選手権に出だした頃に、先生から『ここでしかできない稽古があるから、この舞台に立ち続けなさい』と言っていたことがあり、その言葉をずっと胸に30年弓を引いています。明日から来年の今日までの1年間をかけて、またここで披露する弓をつくり上げていきたいと思っただけです」



全国から多くの人が選手の応援に駆けつけた

# 第28回

# 全日本女子相撲選手権大会



各階級で優勝に輝いた選手たち（左から超軽量級・小宮山結月、軽量級・岸本はな、中量級・山中未久、軽重量級・石井さくら、重量級・野村紗矢香、無差別級・久野愛莉）

無差別級

## 久野愛莉（東洋警備保障）が5連覇

軽重量級

## 石井さくら（足立新田高校）が2連覇

優勝を目指すので嬉しいですね。

◎優勝II小宮山結月選手

「最終的には世界を取ることを目指しています。そのためにこの大会での優勝を目指していたので嬉しいですね。」

### ■超軽量級

第28回全日本女子相撲選手権大会（主催II日本相撲連盟、日本女子相撲連盟）が10月1日、京都府宇治市の京都府立山城総合運動公園体育館で開催された。無差別級で久野愛莉が5連覇、軽量級で石井さくらが2連覇を達成。重量級は野村紗矢香（南紀支援学校）が初優勝を果たした。中量級は第24・26回大会で軽量級2連覇（第25回大会は中止）を達成した山中未久（クレオテック）が中量級で（超軽量級導入後）初優勝に輝いた。軽量級は岸本はな（飛龍高校）、超軽量級は小宮山結月（都立上野高校）がともに初の栄冠に輝いた。また、団体戦は石川選抜（石川）が本大会初優勝を遂げた。



中量級・決勝戦＝山中（右）と松本ががっぷり四つに組む



超軽量級・決勝戦＝小宮山（左）の下手出し投げ



軽重量級・決勝戦＝石井（左）の押し出し



軽量級・決勝戦＝岸本（左）の上手投げ

試合内容をあまり覚えていないくらい無我夢中でした。来年の世界大会に出場できるように頑張ります」

### ■ 軽量級

岸本はな ○上手投げ 奥富夕夏

決勝は、岸本はなど第26回大会準優勝の奥富夕夏（リバーサルジム新宿Me、We）の対戦。試合は岸本が奥富の廻しをがっちり掴み、上手投げで勝利。初の栄冠に輝いた。

◎優勝Ⅱ岸本はな選手

「決勝戦では焦りもあり、あまりいい相撲が取れなかったので悔しいです。高校生の間に世界一になることを目指して頑張ります」

### ■ 中量級

山中未久 ○寄り倒し 松本渚

決勝は、第24・26回大会で軽量級2連覇の山中未久と松本渚（Genky）の対戦。がっぷり四つに組む両者。山中が寄り倒しで勝負を決め、階級を上げて初の優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ山中未久選手

「今大会から中量級に階級を上げました。中量級の中では体重で劣る面もありましたが、勝ちへの執念と

にかく自分の相撲を取り切ること、そこに結果がついてくると思ったので、自分を信じて土俵に上がったことが良い結果に繋がったと思います。今後はサウジアラビアで開催されるコンバットゲームズで世界一を狙いたいと思います」

### ■ 軽重量級

石井さくら ○押し出し 鳥袋心海

決勝は、前回大会優勝の石井さくらと鳥袋心海（鳥取城北高校）の高校生対決。決勝戦まで全て押し出しで勝ち上がってきた鳥袋を石井が押し出して勝利。力強さをみせつけ、2連覇を果たした。

◎優勝Ⅱ石井さくら選手

「立ち合いの強化をしていたので押し負けない自信がありました。練習の成果が出てよかったです。世界大会とコンバットゲームズでいい結果を残せるように頑張ります」

### ■ 重量級

野村紗矢香 ○つきひざ 大蔵紫音

決勝は、野村紗矢香と大蔵紫音（日本大学）の対戦。試合はつきひざで野村が勝利。初優勝に輝いた



団体戦・決勝先鋒戦＝  
石川選抜・谷口（左）と静岡県・武井の立ち合い



重量級・決勝戦＝野村（右）が攻め、つきひざで勝利



団体戦・決勝大将戦Ⅱ  
静岡県・岸本（左）が下手投げで勝利



無差別級・第3回戦＝久野（手前）が寄り切りで勝利

◎優勝Ⅱ野村紗矢香選手

「優勝できて嬉しいですね。たまたまが重なって勝つことができました。怪我に気をつけてこれからも頑張ります」

■無差別級（総当たり戦）

中村凜 ○引き落とし 山下紗莉奈

久野愛莉 ○引き落とし 中村凜

久野愛莉 ○寄り切り 山下紗莉奈

無差別級は4連覇中の久野愛莉、中村凜（日本大学）、山下紗莉奈（金沢学院大附属高講師）の3名の総当たり戦で行われた。久野、中村が1勝し迎えた第3回戦。久野が山下を寄り切りで下し、5連覇を成し遂げた。

◎優勝Ⅱ久野愛莉選手

「今回5連覇がかかっている中で、大学の後輩（中村）と石川県の同期（山下）との試合だったので、勝たなきゃいけないという気持ちが強かったです。しっかり勝つことができました。世界選手権、コンバットゲームズと世界大会が控えているので優勝目指して頑張ります」

■団体戦

石川選抜 2-1 静岡県

谷口愛 ○寄り倒し 武井陽奈

久野愛莉 ○寄り切り 福里愛美

黒坂麻樹 下手投げ○ 岸本はな

決勝は前回大会優勝の白鳥（東京）を準決勝で下した石川選抜と第26回大会優勝の静岡県の対戦。先鋒戦は谷口愛（石川）と武井陽奈（静岡）の対戦。体格で勝る谷口が武井を寄り倒し勝利。続く中堅戦は、無差別級5連覇の久野（石川）が福里愛美（静岡）を盤石の強さで寄り切り勝利。この時点で石川選抜の初優勝が決まった。大将戦は軽量級で優勝に輝いた岸本（静岡）が体格差を跳ね返し、黒坂麻樹（石川）に下手投げで勝利。2-1で石川選抜が優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ石川選抜・久野愛莉選手

「チーム一丸となって今年の女子の団体戦全てで優勝することができたのでよかったです。来年、連覇を目指して頑張ります。また、世界大会の団体戦では日本代表の大将を務めるので、優勝できるように頑張ります」

## 入賞者一覧

### ■超軽量級

- 優勝 小宮山結月 (東京都・都立上野高校)  
 準優勝 津谷 奏夏 (秋田県・大館鳳鳴高校)  
 第3位 早川奈津美 (京都府・立命館大学)  
 ” 古瀬 愛恵 (兵庫県・神戸親和大学)

### ■中量級

- 優勝 山中 未久 (京都府・クレオテック)  
 準優勝 松本 渚 (鳥取県・Genky)  
 第3位 長谷川心響 (青森県・木造高校)  
 ” 水沼ひかる (愛媛県・愛媛県社会福祉事業団)

### ■重量級

- 優勝 野村紗矢香 (和歌山県・南紀支援学校)  
 準優勝 大蔵 紫音 (東京都・日本大学)  
 第3位 角田 奈那 (東京都・日本大学)  
 ” 後藤なぎさ (鳥取県・鳥取城北高校)

### ■団体戦

- 優勝 石川選抜 (石川県・谷口愛、久野愛莉、黒坂麻樹、山下紗莉奈)  
 準優勝 静岡県 (静岡県・武井陽奈、福里愛美、岸本はな)  
 第3位 白 鳥 (東京都・小宮山結月、奥富夕夏、石井さくら)  
 ” 鳥取県C (鳥取県・島袋心海、長門美咲、石川玲愛、後藤なぎさ)

### ■軽量級

- 優勝 岸本 はな (静岡県・飛龍高校)  
 準優勝 奥富 夕夏 (東京都・リバーサルジム新宿MeWe)  
 第3位 田村 仁愛 (兵庫県・神戸親和大学)  
 ” 新阜 夏夢 (鳥取県・鳥取城北高校)

### ■軽重量級

- 優勝 石井さくら (東京都・足立新田高校)  
 準優勝 島袋 心海 (鳥取県・鳥取城北高校)  
 第3位 石川 乃愛 (東京都・日本大学)  
 ” 太田 麻乃 (静岡県・永田接骨院鍼房)

### ■無差別級

- 優勝 久野 愛莉 (石川県・東洋警備保障)  
 準優勝 中村 凜 (東京都・日本大学)  
 第3位 山下紗莉奈 (石川県・金沢学院大学附属高講師)



相撲の成立から現状を経て将来像へ



四六判・上製・422頁・2,400円+税

相撲  
その歴史と技法

東京大学大学院  
法政政治学研究所教授

新田 一郎 著

日本武道館発行 単行本のご紹介

相撲の成立から、現代相撲の基本的な条件が整うまでの歴史の概略をたどり、相撲技術の歴史的な変遷について概観する。  
 「相撲はどこから来たのか、相撲とは何か、相撲はどこへ行くのか」を問う著者渾身の一書。

編集発行 公益財団法人 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2番3号  
<http://www.nipponbudokan.or.jp/>

# 第14回鹿島神宮奉納 日本古武道交流演武大会 35流派が演武を奉納



尾張貫流槍術

第14回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会が10月8日、武神を祀る鹿島神宮（茨城県鹿嶋市）の本殿前特設演武場で開催された。境内には参拝者などを含む延べ約4000名が参詣。多くの観衆が見守る中、全国から集まった古武道の35流派・119名が各地に伝わる妙技を奉納した。

静謐な鹿島の杜の境内で、日本武道館の永嶋信哉振興部長の開会宣言で大会は開始された。国歌斉唱に続いて、日本武道館の吉川英夫常任理事・事務局長が「各流派の技は戦場での必殺の技であり、古武道は現代武道の源流です。古武道の技とともにその奥にある心を堪能していただければと思います」と主催者挨拶を行った。次に鹿嶋市の田口伸一市長が祝辞として「本大会では全国から35流派が参加するということで、まさに日本を代表する古武道大会であります。このような大会が武甕槌たけかみの御前で開催されることは大変意義深いことと思います。この鹿島の地で古武道の各流派の皆様が日頃の鍛錬の成果を発揮することを祈念いたします」と述べ、続いて鹿島神宮



多くの参拝者の目が留まる



吉川英夫  
日本武道館常任理事・事務局長



田口伸一  
鹿嶋市長



鹿島則良  
鹿島神宮宮司



天真正伝香取神道流剣術



卜傳流剣術



竹内流柔術 腰廻小具足



竹生島流棒術

の鹿島則良宮司が「本日は、大神様も楽しみにしていることと思えます。稽古で鍛えた技をしっかりと御神前で披露していただければと思います」と歓迎の言葉を述べた。

演武は天真正伝香取神道流剣術の演武から開始され、前半はコロナ禍のため、近年の大会に出場できなかった遠方からの流派が演武した。尾張貫流槍術は4年ぶりに奉納。3・6mの二間槍を素早く繰り出し観客を驚かせた。

演武が進むについて、本殿前には参拝を待つ長蛇の列ができた。迫力ある古の妙技に自然と足が止まり、先へ進むよう促される場面も見受けられた。

演武収めは、地元・鹿島に伝わる鹿島新當流しんとうりゅう剣術が「鹿島の太刀」を披露した。

最後は日本武道館の永嶋振興部長が閉会を宣言して終了した。





天道流薙刀術



貫心流居合術



心月無想柳流柔術



宝蔵院流高田派槍術



伯耆流居合術



澁川流柔術



大東流合気柔術琢磨会



心形刀流剣術



柳生心眼流體術



関口流抜刀術

連綿と続く技と心を奉納



氣樂流柔術



柳生新陰流兵法剣術



荒木流拳法



荒木流軍用小具足



戸田派武甲流薙刀術



神道夢想流杖術



天神真楊流柔術 (川越市)



無雙直傳英信流居合術



長谷川流和術



大東流合気柔術



天然理心流剣術



神道無念流剣術



鞍馬流剣術



直心影流薙刀術

## 日本武道館の単行本



**剣道の文化誌** 明治大学教授 長尾 進 著  
四六判・上製・480項・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いつながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



**剣道 その歴史と技法** 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著  
四六判・上製・516項・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



**合気道 その歴史と技法** 合気道道主 植芝守央 著  
四六判・上製・362項・定価2,640円

世界140の国と地域、国内2,400の道場、団体で愛好される合気道。開祖・植芝盛平翁の生涯、植芝吉祥丸二代道主による普及・振興、さらなる発展に繋げた現道主による取り組み。その歴史の中で培われ伝え続けてこられた合気道の理念、それを体現する稽古法、基本的な技法の解説……合気道の全てを網羅した決定版。



**空手道 その歴史と技法** 小山正辰・和田光二・嘉手苺徹 著  
四六判・上製・548項・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇糸衝柔流の小山正辰氏、首里糸衝柔流の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苺徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苺氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長原の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。



**マンガ・日本武道風土記** 漫画家、別府大学客員教授 田代しんたろう 著  
B5判・248項・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみたい。



**死ぬまで弓道** 弓道教士七段 小牧佳世 著  
四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ



**学校武道の歴史を辿る** 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著  
四六判・上製・354項・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

### ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部  
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158  
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



各地に伝わる古の妙技



天神真楊流柔術（新座市）



小野派一刀流剣術



無比無敵流杖術



立身流兵法



金硬流唐手・沖縄古武術



鹿島新當流剣術

# 術技交流研修会と4年ぶりの懇親会

## 研修会で互いの技を見取り稽古

大会前日には、鹿島神宮の武徳殿で、術技交流研修会を実施。演武場を2面に分けて2部制で行われた。待機中の演武者は他流派を見取り稽古。演武者は迫真の演武を繰り広げ、大勢の流派が見守った。

研修会後、場所をサンロード鹿島

に移して懇親会が行われた。懇親会と銘打って食事会が行われるのはコロナ禍前の2019年以来4年ぶり。鹿島神宮からは御神酒が振る舞われた。参加者は親睦を深め、演武大会に向けて英気を養った。



武徳殿で行われた術技交流研修会



4年ぶりに開催された懇親会

### 【出場流派・参加者】

鈴木崇史

- ① 天真正伝香取神道流剣術（京増重利、荒野祥司、成毛弘、櫻井俊也）
- ② 竹生島流棒術（松浦寛澄、岩永雅彦、迎俊明、石川裕章）
- ③ 竹内流柔術 腰廻小具足（竹内秀将、竹内勢至、竹内智隆）
- ④ 卜流剣術（小山隆秀、小山秀晃）
- ⑤ 貫心流居合術（上田峻平、安食敬太）
- ⑥ 澁川流柔術（吉野明嗣、リチャードストーンル）
- ⑦ 宝蔵院流高田派槍術（加藤了嗣、西堀清作）
- ⑧ 伯耆流居合術（大窪敏明、井上優一郎、ブラッドリー・ラスコム）
- ⑨ 天道流薙刀術（木村恭子、木村有里、清水真由美、角間富美）
- ⑩ 心月無想柳流柔術（桑波田秀祐、奥村宗一郎、仲尾昭一）
- ⑪ 心形刀流剣術（小林強、原謙一、伊東大輔）
- ⑫ 関口流抜刀術（中山洋一、林憲一、米谷明、米谷香織）
- ⑬ 大東流合気柔術琢磨会（小林明彦、福岡慎輔、三上篤志、中岡飛鳥）
- ⑭ 尾張貫流槍術（下村幸裕、下村直樹、赤羽根大介、若尾洋子）
- ⑮ 柳生新陰流兵法剣術（柳生耕一、中山雄介、寺田裕昭、松本義久）
- ⑯ 柳生心眼流體術（梶塚靖司、寺久保敦也、藤澤勝也）
- ⑰ 氣樂流柔術（川島輝之、船田清、反町明大、大塚良太郎）
- ⑱ 荒木流拳法（西川二郎、細野桂一、
- ⑲ 戸田派武甲流薙刀術（建入久代、永楚浩司、本多日向子、小野貴史）
- ⑳ 天神真楊流柔術（川越市（柴田孝一、柴田俊充、阿部岳春、今野賢太）
- ㉑ 荒木流軍用小具足（千葉明、片桐克彦、河野真一、鶴岡嘉治）
- ㉒ 神道夢想流杖術（小塚禮子、神之蘭文男、林映子、安田嘉一）
- ㉓ 長谷川流和術（桑原巡、倉田勝己、逸見彰一、小野晴佳）
- ㉔ 天然理心流剣術（常田貞行、時田由記、小林恵子、須田英宏）
- ㉕ 無雙直傳英信流居合術（関口高明、中野園子、尾上政人）
- ㉖ 大東流合気柔術（近藤昌之、白山秀遠、滝口太士、味岡功磨）
- ㉗ 神道無念流剣術（小川武、土屋正則、相馬功一、玉根純也）
- ㉘ 直心影流薙刀術（渋谷桂子、伊原曜子）
- ㉙ 鞍馬流剣術（柴田章雄、渡辺良雄、吉田稷寛、松井康一）
- ㉚ 小野派一刀流剣術（矢吹裕二、庄嶋卓司）
- ㉛ 金硬流唐手・沖繩古武術（早坂ゆかり、早坂義文、大和久正幸、植松哲司）
- ㉜ 立身流兵法（加藤絨、加藤敦、齊藤勝、江尻裕介）
- ㉝ 無比無敵流杖術（根本憲一、村木浩治、沢幡伸男、小國英智）
- ㉞ 天神真楊流柔術（新座市（古川真一、小澤修一）
- ㉟ 鹿島新當流剣術（内田嘉昭、今井淳也、橋本大、小松崎政史）

# 2023年 全日本学生柔道 体重別選手権大会

**女子** 米川明穂(筑波大)が  
78kg超級 悲願の初優勝



78kg超級・決勝=米川(左)の小外刈

**男子** 中島瑞貴(早稲田大)が  
66kg級 早大男子勢で初タイトル



66kg級・決勝=中島(上)が内股を返す

体重別の学生柔道日本一を決める全日本学生柔道体重別選手権大会(主催)全日本学生柔道連盟、朝日新聞社)が9月30日・10月1日、日本武道館で開催された。試合は各地区予選を勝ち抜いた選手により、男女14階級で争われ、男子66kg級では、中島瑞貴が早稲田大として初めて優勝した。女子78kg超級では、米川明穂(筑波大)が大会を制した。

大会は、国際柔道連盟の試合審判規定により、試合時間は4分、トーナメント形式で行われた。放った内股を中島が返して勝利。中島が早稲田大として男子で初めて優勝に輝いた。

## 男子

### ▼66kg級

**白金宏都** ○小内巻込 関本賢太  
決勝は、白金宏都(筑波大)と関本賢太(明治大)が対戦。延長1分過ぎ、白金が小内巻込で技有を奪い、初優勝に輝いた。

### ▼73kg級

**田中裕大** ○大腰 田中龍雅  
勝ち上がったのは、田中裕大(国士館大)と田中龍雅(筑波大)。延長5分過ぎに田中裕大が豪快な大腰を放って技有を奪取。悲願の優勝を果たした。

### ▼66kg級

**中島瑞貴** ○内股返 古志侑樹  
決勝は中島瑞貴(早稲田大)と古志侑樹(天理大)。延長戦で古志が

「強い選手ばかりでしたが、一戦一戦を丁寧に戦ってきたのが優勝に繋がったと思います。決勝の関本選手も強かったです。自分の柔道を貫きました」

「去年、この大会で情けない試合をしてしまったので、この1年間、優勝するために頑張ってきました。決勝は、相手の勢いにまれずに自分らしさを出せたと思います」



73kg級・決勝＝田中裕大（下）の豪快な大腰



60kg級・決勝＝白金（下）の小内巻込



81kg級・決勝＝澤口（奥）が払腰を放つ



90kg級・決勝＝藤永（奥）の体落



100kg超級・決勝＝酒井（左）の大内刈



100kg級・決勝＝田中（上）の大内刈を返す朝廣

▼81kg級  
澤口宗志 ○払腰 三ツ石岳大  
決勝は、澤口宗志（日本体育大）と三ツ石岳大（東海大）。延長早々に、澤口が力いっぱい払腰を放って試合を決めた。  
●81kg級優勝⇨澤口宗志（日本体育大）  
「優勝できて素直に嬉しいです。場内から力をもらいました」

勝は我慢の試合でしたが、優勝できてよかったです」

▼81kg級  
朝廣隆翔 ○合技 田中航太  
朝廣隆翔（明治大）と田中航太（筑波大）。終了間際に朝廣が大内返と横四方固の合技で勝ちを収めた。  
●100kg級優勝⇨朝廣隆翔（明治大）  
「去年は出場できなかったのが優勝できて嬉しいです。決勝は最後まで気を抜くことなく戦えました」

▼90kg級  
藤永龍太郎 ○体落 海堀陽弥  
決勝は、藤永龍太郎（国士舘大）と海堀陽弥（日本体育大）。両大の関係者から大声援が送られるなか、藤永が虚を衝いた体落で勝利した。  
●90kg級優勝⇨藤永龍太郎（国士舘大）  
「去年優勝できなかったのが、その悔しさを糧に稽古してきました。決

▼100kg超級  
酒井晃輝 ○大内刈 笠原勇馬  
決勝は酒井晃輝（天理大）と笠原勇馬（国士舘大）。中盤に酒井が放った大内刈で技有を奪取。試合はそのまま終了し、酒井が優勝を飾った。

女子

▼48kg級

稲垣若菜 ○合技 古里幸永羽

決勝は、稲垣若菜（桐蔭横浜大）と古里幸永羽（山梨学院大）の対決。

開始1分で稲垣は崩上四方固で技有を取られたものの、勢いよく放った袖釣込腰からそのまま袈裟固に持ち込んで合技で一本勝ちした。



48kg級・決勝＝稲垣（右）の袖釣込腰

▼52kg級

伊藤南風 ○大内刈 宮井杏

決勝は、伊藤南風（環太平洋大）と宮井杏（山梨学院大）。終了直前、

幾度となく伊藤が大内刈を繰り返す。最後にこれが技有となつて勝利を収め、伊藤が初優勝を飾った。



52kg級・決勝＝伊藤（右）が大内刈で技有を奪う

●57kg級優勝Ⅱ込山未菜（東海大）  
「一戦一戦、優勝に向かつて頑張りました。ありがとうございました」

▼63kg級

山口葵良梨 ○反則負け 石岡来望

決勝は山口葵良梨（国士舘大）と石岡来望（環太平洋大）。延長戦で相手の反則負けで山口が勝利した。



▲57kg級・決勝＝込山（下）が袖釣込腰で一本勝ち

▼70kg級

溝口葵 ○後袈裟固 本田詩乃

勝ち上がったのは溝口葵（龍谷大）と本田詩乃（帝京大）。延長戦で相手の寝技を返した溝口が後袈裟



70kg級・決勝＝溝口（手前）の後袈裟固

▼63kg級・決勝＝果敢に攻める山口（奥）



▼78kg級

稲葉千皓 ○払腰 池田紅

稲葉千皓（国士舘大）と池田紅（東海大）。序盤に稲葉が勢いよく払腰を放つ。瞬く間に池田の身体が美し

固に入る。これが技有となり、試合は終了。涙の初優勝を果たした。  
●70kg級優勝Ⅱ溝口葵（龍谷大）  
「涙が出るくらいめっちゃ嬉しいです。これまで、けがもあつたりして自分の思うようにいかないことが多くありました。今日は自分の柔道ができました」



78kg級・決勝=稲葉（奥）が払腰を決める

い放物線を描いて一本。稲葉が優勝を勝ち取った。

●78kg級優勝Ⅱ稲葉千皓（国土館大）  
「実感は湧きませんがすごく嬉しいです。今日は気負わずに頑張れました。決勝で一本が取れて嬉しいです」

▼78kg超級

米川明穂 ○小外刈 川口鈴王

決勝は、昨年準優勝の米川明穂（筑波大）と川口鈴王（明治国際医療大）。延長戦で川口が仕掛けたところに米川が小外刈で技有を奪取。悲願の優勝に輝いた。

●78kg超級優勝Ⅱ米川明穂（筑波大）

「嬉しいです。去年悔しい思いをしたので、勝ってホッとしています」

【大会結果】

■男子

- ▼60kg級Ⅱ①白金宏都（筑波大）②関本賢太（明治大）③南太陽（日本文理大）、天野武蔵（明治大）
  - ▼66kg級Ⅱ①中島瑞貴（早稲田大）②古志侑樹（天理大）③吉岡正晃（国土館大）、佐々木光太郎（法政大）
  - ▼73kg級Ⅱ①田中裕大（国土館大）②田中龍雅（筑波大）③中村将大（天理大）、旭征哉（筑波大）
  - ▼81kg級Ⅱ①澤口宗志（日本体育大）②三ツ石岳大（東海大）③飯田健介（早稲田大）、菅原幸大（日本体育大）
  - ▼90kg級Ⅱ①藤永龍太郎（国土館大）②海堀陽弥（日本体育大）③岡田陸（国土館大）、中村俊太（國學院大）
  - ▼100kg級Ⅱ①朝廣隆翔（明治大）②田中航太（筑波大）③工藤海人（東海大）、金澤聡瑠（国土館大）
  - ▼100kg超級Ⅱ①酒井晃輝（天理大）②笠原勇馬（国土館大）③ルター エンフボルド（山梨学院大）、三谷雄大（桐蔭横浜大）
- 女子
  - ▼48kg級Ⅱ①稲垣若菜（桐蔭横浜大）②古里幸永羽（山梨学院大）③原田瑞希（日本大）、吉岡光（東海大）
  - ▼52kg級Ⅱ①伊藤南風（環太平洋大）②宮井杏（山梨学院大）③中嶋涼葉（福岡大）、中島幸穂（仙台大）
  - ▼57kg級Ⅱ①込山未菜（東海大）②武田優香（龍谷大）③西川みはる（帝京大）、宮崎七海（東海大）
  - ▼63kg級Ⅱ①山口葵良梨（国土館大）②石岡来望（環太平洋大）③三谷桜（帝京大）、谷岡成美（筑波大）
  - ▼70kg級Ⅱ①溝口葵（龍谷大）②本田詩乃（帝京大）③井上七海（仙台大）、大森恵花（早稲田大）
  - ▼78kg級Ⅱ①稲葉千皓（国土館大）②池田紅（東海大）③杉村美寿希（東海大）、衣笠裕美子（環太平洋大）
  - ▼78kg超級Ⅱ①米川明穂（筑波大）②川口鈴王（明治国際医療大）③高山紗楓（環太平洋大）、山海蘭（山梨学院大）

創立70周年記念式典を挙行

全日本学生柔道連盟

9月30日の大会終了後、グラウンドアーク半蔵門（東京都千代田区）で全日本学生柔道連盟の創立70周年記念式典が200名が出席し、行われた。式典では沖永佳史会長が挨拶。来賓として全日本柔道連盟の中村真一会長、講道館の上村春樹会長などが祝辞を述べた。



挨拶を行う沖永会長



第65回全日本実業団剣道大会

# パナソニック（EW門真）が 7年ぶりの優勝



決勝・パナ（EW門真）対富士FBI（本社）／代表戦＝パナ・川崎（手前）が面を決める

第65回全日本実業団剣道大会（主催Ⅱ全日本実業団剣道連盟）が9月18日、日本武道館で開催された。大会には全国から340チームが参加し、実業団剣道日本一が争われた。

決勝は、パナソニック（EW門真）と富士フイルムB1（本社）が対戦。代表戦の末、パナソニック（EW門真）が7年ぶりに優勝した。

試合は5人制の団体戦で行われた。試合時間は準々決勝までは3分、準決勝および決勝は4分。勝敗は勝者数で決し、同数の場合には総取得本数によって決した。勝者数、総取得本数が同数の場合、代表者による代表戦で勝敗を決した。

■1～6回戦

前回大会優勝の三井住友海上（本店）、同3位の九州電力（本店）、西日本シティ銀行（本店）が3回戦で敗退。また、前回大会準優勝のNTT（本社）も6回戦で惜しくも敗退するなど、前回大会ベスト4のチームが準々決勝を前に姿を消した。

（以下、パナソニック↓パナ、富士フイルム↓富士F）

■準々決勝

準々決勝に名を連ねたのは、東芝テック（本社）、NX商事（本社）、三菱商事（本店）、パナ（EW門真）、富士FBI（本社）、パナ（EW本社）、西日本シティ銀行（福岡）、富士FBIジャパン（本社）の8チームであった。

東芝テック（本社）とNX商事（本社）の試合は、東芝テックが先鋒、次鋒、中堅と3連勝し、準決勝に進出した。

三菱商事（本店）とパナ（EW門真）の試合はパナの先鋒・川崎陽也と副将・高優司が2勝を奪い、勝利。

富士FBI（本社）とパナ（EW本社）の試合は、副将まで0-0のまま大将戦にもつれ込む。富士FBIの大將・梅ヶ谷翔が、鏢<sup>つば</sup>競り合いからの引き面を決め、一本勝ち。1-0の接戦を制した。

西日本シティ銀行（福岡）と富士FBIジャパン（本社）の試合は、富士FBIジャパンの副将・上原祐二が出ばな面を決め、一本勝ち。その後、大将が引き分け、1-0で富士FBIジャパンが準決勝へ駒を進めた。

■準決勝①

パナニック 1-0 東芝テック（本社）

先鋒	川崎陽也	小林健太
次鋒	小阪拓海	大西優斗
中堅	安井奎祐	新井康平
副将	高優司	西浦幸希
大将	日下達基	五十嵐空

先鋒戦、パナ・川崎の激しい攻めや体当たりにより、東芝テック・小林が体勢を崩される展開が続く。川崎が鋭い攻めから小手、面と連続技を放つと、見事に小林の面を捉え、一本。試合終盤、小林が強引に突きを放つ

も、川崎が打ち終わりの隙を面で捉え、二本勝ち。次鋒から大将が引き分けで繋ぎ、パナが決勝へ進出した。

■準決勝②

富士フイルム 2-0 富士FBIジャパン（本社）

先鋒	工藤翔太	福田敏樹
次鋒	米満広将	福岡 錬
中堅	黒木裕二郎	野村慶徳
副将	藤田啓人	上原祐二
大将	梅ヶ谷翔	岩川 力

系列会社同士の対決。普段から稽古で顔を合わせる機会が多いから

か、先鋒から中堅まで引き分けが続く。副将戦、富士FBIジャパン・上原が攻め入るタイミングに、富士FBI・藤田が出ばな面を合わせ一本を先取。そのまま一本勝ちを収めた。後がなくなつた富士FBIジャパン・岩川に対し、引き分け以上でチームの勝利となる富士FBI・梅ヶ谷の大將戦。試合中盤、試合場の隅に追い込まれた岩川が手元を上げる瞬間を、梅ヶ谷が出ばな小手で抑える。その後、梅ヶ谷が一本を守り切り、勝利。2-0で富士FBIが決勝の切符を手にした。



準決勝①・先鋒戦＝パナ・川崎（左）の1本目の面が決まる



準決勝②・大将戦＝一本の機会を窺（うかが）う富士FBI・梅ヶ谷（右）

■決勝

パナソニック 1代—1 富士フィルム B1(本社)

先鋒 川崎陽也 メー 工藤翔太  
 次鋒 小阪拓海 ーコ 米満広将  
 中堅 安井奎祐 ー 黒木裕二郎  
 副将 高 優司 ー 藤田啓人  
 大将 日下達基 ー 梅ヶ谷翔  
 代表戦 川崎陽也 メー 梅ヶ谷翔

下と富士FBI・梅ヶ谷の大將戦も互いに有効打を決められず引き分けとなったため、勝負の行方は代表戦に委ねられた。

代表戦は、今大会1回戦から全勝中のパナ先鋒・川崎と富士FBI大将・梅ヶ谷が出場し、中央大学の先輩・後輩対決となった。

先鋒戦はパナ・川崎と富士FBI・工藤が相見え、試合開始直後から激しい技のぶつかり合いが繰り広げられる。試合終盤、工藤が面を防ぎながら間合いを詰めたところを、川崎が竹刀の上から面を叩き込み、一本を先取。そのまま川崎が一本勝ちを収めた。

両者とも序盤から気合十分な技を繰り出し、熾烈な優勝争いが展開された。試合時間2分30秒過ぎ、川崎の手元が上がる瞬間に梅ヶ谷が出ばな小手を合わせるが、惜しくも一本にはならなかった。試合時間3分を経過し、延長戦にもつれ込むかと思われた瞬間、両者がほぼ同時に面に飛び込む。一瞬早く川崎が面を捉え、一本。

次鋒戦、長身で上段に構える富士FBI・米満に対し、身長差があるパナ・小阪は機敏な足さばきで攻め込む。試合が終盤に差しかかると、小阪が上段の片手面を警戒し、手元を上げたところに、米満が諸手の小手を決める。一本を守り切った米満が1勝をあげ、勝負は五分となる。

中堅、副将が引き分け、パナ・日

川崎が1回戦からの勢いそのままに勝利し、チームは7年ぶりに王座へ返り咲いた。



決勝・代表戦＝試合中盤、梅ヶ谷（右）が出ばな小手を放ったが、惜しくも一本にはならなかった



決勝・先鋒戦＝パナ・川崎（右）が面を決める



決勝・次鋒戦＝富士FBI・米満（右）が小手を決める

◎優勝Ⅱ勝見健太監督

パナソニック（E W門真）



「7年ぶりの優勝でとても嬉しいです。これまで何度も1本差で泣いてきたので、そこを乗り越えられたっていうのはすごい良かったです。」

（最後の代表戦について）今日は川崎が全勝していて、勢いも良く気持ちも乗っていたので、最後はその力に託してみました。

今回パナソニックは、本社チームをAチームとして、AからEまで5チーム出場しました。今回優勝したのはBチームなんですけど、全チームが上位を目指して試合をしたので、それが結果に繋がったのかなと思います。

（今後の意気込みについて）まずは、この後のミーティングで今日の試合の課題を洗い出して、来年もチャレンジヤーの気持ちで戦っていいと思います」

◎最優秀選手賞Ⅱ川崎陽也選手

パナソニック（E W門真）



「これまでチームでいろんな話し合いをしながら結束を固めてきました。今日は後ろに控えるベテランの先輩に回せば絶対に勝てると思うて、自信を持って戦いました。」

梅ヶ谷選手との代表戦は、大学の先輩なのですごく緊張したんですけど、もう胸を借りる気持ちで思いっきり行きました。

入社1年目なのですが、職場や剣道部の方々が、いろいろな面で支えてくれて、剣道と仕事を両立することができています。また、強い同期と毎日練習できるので、とてもいい環境で剣道ができています。

今日の優勝を踏まえつつ、また初心に戻って一つ一つ積み重ねて、来年またこの舞台上で優勝できるように頑張りたいと思います」



笑顔で記念撮影をする、パナソニックの選手と関係者



全国の実業団剣道 340 チームが日本武道館の大道場に集結した

【大会結果】

▽優勝Ⅱパナソニック（E W門真）

▽準優勝Ⅱ富士フイルムB I（本社）

▽3位Ⅱ東芝テック（本社）、富士フイルムB I ジャパン（本社）

▽敢闘賞ⅡN X 商事（本社）、三菱商事（本店）、パナソニック（E W本社）、

西日本シティ銀行（福岡）

# 第11回全国少林寺拳法指導者研修会 指導者の持ち味を生かす 武道授業の実施を目指して



第11回全国少林寺拳法指導者研修会（主催Ⅱ日本武道館・少林寺拳法連盟、後援Ⅱスポーツ庁）が9月16～18日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで開催された。

本研修会は少林寺拳法を専門としない中学校保健体育科教員の授業力向上と、少林寺拳法授業指導者を対象に伝達講習のできる中核的指導者を養成する目的で行われた。講師・助講師8名、小・中学校の教員ならびに教員を目指す大学生を含む34名が参加した。

## ■1日目（9月16日）

●開講式 開講式では、はじめに野田千春（ちゆん）少林寺拳法連盟理事が主催者挨拶に立ち、次のように述べた。

「学校現場における指導は生徒が主体的・対話的に学び、総合的な思考力や表現力を養うことで生きる力につながることを目的としています。」

少林寺拳法には『組手主体』という教えがあり、相手とともに上達することが大切です。この考え方は、主体的・対話的な学びに相応しいものであると考えています。皆様で協

第11回全国少林寺拳法指導者研修会  
講師・助講師・事務局名簿

【講師】

高坂正治 中学校武道授業推進委員長  
国際武道大学体育学部武道学科教授  
小井寿史 中学校武道授業推進委員  
岡山県笠岡市立真鍋中学校校長  
中島正樹 中学校武道授業推進委員  
東京都富士見丘中学校・高等学校教諭  
安田智幸 中学校武道授業推進委員  
岡山県金光学園中学校・高等学校教頭補佐  
桑島亜紀 長野県安曇養護学校教頭  
中村優一 東京都江戸川区立小岩第三中学校主幹教諭

【助講師】

村瀬晃啓 少林寺拳法連盟東京事務所所長  
谷 聡士 少林寺拳法連盟振興普及部部长

【事務局】

秋元宏介 少林寺拳法連盟東京事務所  
和田 健 日本武道館振興部振興課長  
石井政利 日本武道館振興部振興課主任  
矢作笙子 日本武道館振興課事務員



和田健  
日本武道館振興課長



野田千春  
少林寺拳法連盟理事

力し合って良い研修会を作り上げて  
ください」

続いて和田健わたけん日本武道館振興課長  
が「講師の先生方が試行錯誤して得  
た指導法、経験を今回惜しみなく出  
していただけたと思いますので、わ  
からないことがあれば、この場で解  
決して、さまざまなエッセンスを持  
ち帰ってください。」

また今回、初めて少林寺拳法を経  
験される方もいます。周りの仲間の  
助けが必要だと思えますので、経験  
者の方には協力していただき、初心  
者の方が参加して良かったと思える

ような実りのある研修会にしてくだ  
さい」と挨拶した。

◆  
●講義Ⅰ 高坂正治たかさかまさち講師が「中学校  
武道（少林寺拳法）授業で伝えたい  
こと」と題して、「少林寺拳法の特  
性とは何か」を自分自身の言葉で明  
確に、具体的、簡潔に説明できるよ  
うにと本研修会の目的を示した。

●講義・実技Ⅰ 大道場に会場を移  
し、村瀬晃啓むらせあきひろ助講師と谷聡士たにさとし助講師  
が「少林寺拳法のエッセンス」と題  
して、礼法や基本動作と基本となる  
技のポイントを参加者に示した。



高坂講師が講義Ⅰで本研修会の目的とテーマを確認した

●講義・実技Ⅱ 「模擬授業」では、  
中村優一なかむらゆういち講師が生徒に主体的・対話  
的で深い学びを実感させるための授  
業づくりの工夫として、音楽を取り  
入れた実践例を紹介した。

■2日目（9月17日）

●講義・実技Ⅲ 「特別支援学校の  
授業の実際」では、桑島亜紀くわじまあき講師か  
ら「少林寺拳法は障がいの有無にか  
かわらず適応しやすい教材である。  
子どもたちの伝える力を育てる大  
きな可能性を秘めている」と説明した。

●講義・実技Ⅳ 小井寿史おいひさし講師が「社  
会で求められる『創造社会』に適  
応できる（＝非認知能力が高い）人  
物」と、少林寺拳法が求める人物像  
には重なるものがある。少林寺拳法  
の授業を通じて生徒の能力を伸ばし  
てほしい」と述べた。

●実習Ⅰ このコマでは教員の持ち  
味を生かした授業や、どのように技  
を見せるか、少林寺拳法の特性の説  
明方法について検討した。

●講義・実技Ⅴ 習熟度に応じた班  
別活動では、初心者班を安田智幸やすだちゆき講  
師が担当し、参加者をサポートしな  
がら基本動作の実技指導を行った。



講義・実技Ⅱ「模擬授業」  
中村講師が音楽を活用した授業を紹介



講義・実技Ⅰ「基本動作」  
2人一組で行う蹴り足の上げ方を学んだ



実習Ⅱ「少林寺拳法の特性」では  
各グループで検討した内容を互いに発表した



講義・実技Ⅲ「特別支援学校の授業の実際」で  
桑島講師が少林寺拳法の可能性について解説した



各講師から一人一人に修了証が授与された



中島講師が配布教材の用途別活用方法について説明した

●実習Ⅳ 演武組成・演武発表では、各グループが発表の直前まで練習に励み、工夫を凝らした演武が披露された。

●閉講式 受講生を代表して、北海道の横山駿太氏に修了証が授与された。その後、中島正樹講師が講師講習を、最後に和田課長が主催者挨拶をそれぞれ述べ、全日程を終了した。

■3日目（9月18日）

●講義・実技Ⅵ、実習Ⅱ この時間は各班で「技能の評価」と「少林寺拳法の特性」を踏まえて中学校の武道授業に適した演武の構成を検討し、時間をかけて翌日の演武発表の準備をした。

●講義Ⅱ 「支援体制の強化について」では安田講師から岡山県笠岡市にある9校のうち5校が少林寺拳法の授業を実施していると、市の取り組みについて紹介があった。

●実習Ⅲ 学校現場における安全管理について、谷助講師が重大事故やハラスメントの実例を挙げて解説した。

（文責 日本武道館振興課）

参加者インタビュー

## 「生徒を楽しませることを第一に」



横山駿太 (30) 教諭  
北海道南富良野町立南富良野中学校

### —参加の動機について

本年度で教員生活が9年目を迎えました。前任校は竹刀、用具、外部指導者まで全てが揃っていて充実した剣道授業ができていました。

しかし本年度赴任した南富良野中学校では、昨年度まで空手道の授業を担当されていた外部講師の転勤もあり武道授業実施を不安に思っていました。いよいよ何か自分で武道を身につけなくてはと思っていた矢先に学校内回覧で日本武道館主催の少林寺拳法と合気道の研修会の要項を目にしました。空手道に代わる武道授業について周りに相談したところ少林寺拳法がよいのではと助言をもらい

申し込みを決意しました。

### —自身の武道経験について

専門はアルペンスキーです。中学時代も武道の授業はありませんでしたし、自分から進んで大学の授業で武道に取り組んでいたわけではないので、武道経験はほぼありません。

### —少林寺拳法のイメージについて

研修センターに着いた瞬間に他の参加者から合掌礼で迎えられた時はとんでもないところに来てしまったなと思いました(笑)。

少林寺拳法は「中国の武道」というのが第一印象です。どの武道にも言えることですが、所作が多く手順を追って型通りにやらなくてはならないものだと思っていました。

しかし、今回の研修で少林寺拳法は日本の武道で技の組み合わせの自由度が高く、柔軟な発想で手段や方法が選択できるところが教材に適していると思えました。例えば、中村講師の音楽を活用した授業を実践することで生徒に「少林寺拳法って楽

しい」と感じてもらえるなど、授業をする上でたくさんのヒントがもらえました。

### —必修化指導書について

日本武道協議会発行の中学校武道必修化指導書は前任校で剣道編には目を通しましたが、少林寺拳法編は見たことがありませんでした。実際に担当する単元種目にしか時間が割けないのも現状です。

自分が指導する立場になることを思うと今以上に何倍も勉強する必要を感じています。配布された指導書で知識を自分の中に落とし込んでしっかりと準備をしていきます。

### —外部講師の活用について

球技の単元の時に外部講師を活用することはほぼないと思いますが、武道では外部講師に頼ってしまうケースが多々あります。

初めて少林寺拳法の授業を行います。今とところ外部講師に頼らず自分一人で授業に挑戦する予定です。普段から生徒を楽しませることを第一に考えているので、少林寺拳法の授業でも楽しく実践できたらと思うと不安よりもワクワク感の方が

勝っているかもしれません(笑)。

### —授業に向けた準備について

現在2年生の担任をしています。本校は1年生が6人、2年生が17人、3年生が11人の小規模校で、保健体育科教員は私だけなので、全学年の授業を受け持っています。

本年度は少林寺拳法を3学期に6〜8時間の予定で年間単元計画を作成しました。全校一斉実施も検討しましたが、学年別の指導で少林寺拳法のより深い学びにつなげていきたいです。

今回研修会で学んだ「少林寺拳法で伝えること」「少林寺拳法だからできること」は何かを考え、配布された資料を参考に、少林寺拳法の教えや技法を自分なりに生徒に伝えたいです。特に勝敗が重要ではないところなどは少林寺拳法ならではの強みだと思います。

幸い本校では体育を苦手にしていない生徒が少ないので、学びの中に遊びを取り入れ、生徒が楽しめる授業が展開できればと考えています。

# 日野市の全17小学校で空手道体験授業

日野市立  
日野第七  
小学校

## 大きな声で「エイッ」 気合を込めて中段突き



10月6日、東京都日野市立日野第七小学校で空手道の体験授業が行われた。

日野市は2021年開催の東京オリンピック・パラリンピックでウクライナ空手選手団のホストタウンであった。これがかきつけとなり、令和4年度から5年間の計画で、日野市空手道連盟の協力のもと市内全17の小学校で空手道体験教室を実施。本年度は5月から実施されており、合計で4～6年生約1600名が体験を予定している。日野第七小は13校目となった。

取材した体験授業では、5年生の2学級63名が参加。児童たちは初めてとは思えないほどの元気な掛け声とともに、中段突きを行った。

授業は総合的な学習（探究）の時間として実施。菅沼直樹教諭等2名の教員とともに、日野市空手道連盟の日野正剛会長他4名が指導した。

初めに日野会長が空手の歴史などを説明し、日本武道協議会が作成した『中学校武道必修化指導書』のDVD（空手道）を視聴した。中段突きなどの映像が流れると児童たちの中には思わず拳を繰り出す者もあり、興味津々の様子だった。

実技では立礼・座礼の次に立ち方、拳の握り方、受け・突きと続いた。突きの一斉指導では、菅沼教諭の大きな掛け声がかきつけとなり、

児童たちは「エイッ！」と元気よく発声しながら拳を突き出す。全日本空手道連盟の日下修次顧問は「児童たちは他教科の授業では『大きな声を出すな』と指導されています。空手では大きな声を出させて児童は気持ちがいいですよ」と胸を張る。

最後に日野会長が演武の拳本を行いたい児童を募ると8名が元気に拳手。力いっぱい基本的な形を行った。日野会長から「稽古の終わりに『お互いに礼』をします。なぜ『お互いに礼』をするのでしょうか」と質問が投げかけられた。続けて「武道は先生はもちろんですが、仲間から習うことがとても多いのです。お友達にも感謝の気持ちを持ちましょう」と説明があり、「講師に礼」「お互いに礼」をして授業は終了した。

質疑応答では、日野会長の空手歴などに関する質問や、「とても楽しかった」などの感想が出るなか、「本物の蹴りが見たい！」とのリクエストが出された。「現役の手選手だと蹴りの力は700kg相当です」と日野会長は解説。指導者たちのすばやい蹴りが披露され、児童たちは目を丸くしながら大きな拍手を送った。



## 先生に教わり、友達の演武で学び、終わりは礼



◀全日本空手道連盟の空手道授業の冊子2冊。左が児童・生徒用（見開きカラーで空手道について概要を掲載）右が学校用。ともにQRコードをつけて動画で解説

◀DVDを視聴しながら思わず動画と同時に突きを繰り出す児童たち

▼授業後の退館時に礼を行う児童たち



### ■授業後インタビュー

授業終了後、関係者にインタビューを行った。

―授業を振り返って

日野会長「子どもたちは吸収がすぐ早く、興味を持って授業を受けてくれたように見えます。少しずつ、分かりやすい授業ができるようになっていけばと思っております」

菅沼教諭「DVDの視聴では児童と一緒にやってやりました。やりたいと思うものです。また、子ども

たちが向かい合って礼をすることなんて他ではありません。照れくさそうにしました。先ず礼を行いそれから大切さを伝えることが大事だと思います」

―小学校で空手道をやることについて  
大西浩之校長「空手の授業後、退館時に挨拶を普段しない子どもたちが積極的に礼を行っていました。コロナで人との繋がりが希薄となる中、対面での礼儀を大切にするのは武道の良さの一つだと思います」

―日野市の取り組みについて  
大西校長「日野市としてオリ・パラ教育のレガシーの一つが空手であると伺っています」

―子どもたちの体力低下について  
大西校長「コロナ禍で子どもたちの体力が低下しました。一番は体幹が弱くなっています。武道では、立つ姿勢や足を出す姿勢などで体幹も鍛えられると思います」

―日野市空手道連盟の体験授業の協力体制について

日野会長「社会人から学生までの約20名で、スムーズにいくように1校につき3名から5名の万全の体制で行っています」



右から大西校長、菅沼教諭、日野会長、手前は日下顧問